

2020年度 外国語学研究科報告

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
(1)DPに基づく授業目標と内容の設定 授業改善、授業満足度を上げるための目標設定として英語のアカデミック・ライティング教育の満足度を上げる。授業科目の授業アンケート結果は2019年度は平均で5.0/5.0(100%)であったので、2020年度は新規科目アカデミック・ライティングもふくめた授業アンケートによる授業満足度85%を目標とする	(1)既存の「英語表現研究」A, Bの授業内容をそれぞれ英語のアカデミック・スキルズ、アカデミック・ライティング教育の内容に変更する。その効果を「特別研究I,II」の一年目の研究計画と促進を授業アンケートで測る。	100%	(1)DPに基づく授業目標と内容の設定 2020年度の新規内容とした科目も含めた授業アンケートによる授業満足度の85%目標に対し、結果は前・後期平均で99.6%であり、目標を達成したと評価できる。	全授業アンケートの5段階評価は前期平均100%(回収率100%)後期平均99.2(回収率75%)	(1)DPに基づく授業目標と内容の設定のうち、②のデータベースの作成、③の四つのカテゴリーの専門的な研究についての分析及びより専門的な研究についての充実させる
(2)教育課程の運営の改善目標 ①アンケートに基づく教員教材、教育設備の改善 ②入学試験のカテゴリー別の再検討 ③各カテゴリーの広報の強化及び中期的カリキュラム再構成による志願者確保の目標設定を行う(在籍率定員の50%)	(2)①授業アンケートに自由記述欄を設け、改善の助けとする②入試問題を4カテゴリーで検討③中期的カリキュラム再構成の計画	75%	(2)①授業アンケートに自由記述欄を設置②入試問題を4カテゴリーで新規に策定③3カテゴリーで授業内容を刷新し科目名変更、新設科目の設置を完了	①後期より実施 ②3カテゴリーで新規入試問題 ③学則改定	(2) 国際ビジネスコミュニケーション・カテゴリーのカリキュラムの中期的ビジョンに基づく改善、専修免許の指定科目の変更と改善
(3)オンライン授業の強化 ①外国語学研究科独自の特性を打ち出し海外に向けた情報発信の強化を図る ②『未来を牽引する大学院教育改革』を目指し社会人にとってより学びやすい環境を整備する	(3) ①教員作成のウェブページに基づく自主的学習支援を導入した科目を設置 ②オンデマンド、リアルタイム配信を融合リモート授業充実を整備	75%	(3) ①在籍学生全員の履修した後期共通科目での導入 ②開講された全科目で実施	①ウェブページ教材による自主的学習支援 ②Teams, Moodle, Zoomの活用	(3)共通科目を手始めに、E-textbook の作成及びオープンエデュケーションなどDX(デジタルトランスフォーメーション)導入の移行を検討
(4)FD活動の内容と活動量の強化 ①外国語学研究科独自のFD研修会の実施 FD研修会の実施の日程を充分検討し全員参加を実践する	(4)外国語学研究科独自の授業改善を目指すためのセミナー形式によるFD研修会を開催し全教員参加、アンケート提出を要請。	90%	(4)研修会のテーマを調査、ニーズの高いものを選択、3つのテーマで実施。全教員が参加、改善を促進	2021年2月24日15時～16時 FD研修会開催	(4)四カテゴリー別の授業改善目標の設定やFD研修会
(5)各カテゴリーの教員と院生の研究活動の強化 ①学会等の研究発表に院生の参加機会を促進 ②生涯学習センターとの連携講座や公開講座の設営計画2020年度秋冬期講座設営計画	(5)①院生の研究活動の促進を図る ②生涯学習センターとの連携講座の立案と実施	75%	(5)①年度内に修了生が不在のため実践できなかった②新型コロナウイルスのパンデミックと関連したテーマで集客率もアップ	②2021年10月～12月、リモート講座で実施	(5)院生の自主的学習支援と研究活動の強化、生涯学習センターとの連携講座の継続の計画
(6)学位授与の方針に基づく修士号授与 ①中間報告会の時期の変更を各カテゴリーで検討する ②修士論文・課題研究の審査基準のルーブリック評価表の作成	(6)①中間報告会の前倒しを研究科委員会で審議②ルーブリック評価表の作成の検討開始	75%	(6)①新型コロナウイルス対策のためオンラインで実施、時期の前倒しは次年度からに決定②年度内修了予定者が不在となりルーブリック評価表作成は完了せず	課程修了予定者の進路変更	(6)上記(5)の項目と併せて次年度に向けてルーブリック評価表の作成を計画
(7)就職、進学先支援の強化 ①「英語」専修免許についての広報の工夫 B'sLink を活用した一斉メール、ホームページの活用強化 ②「英語運用能力試験」の受験対策支援の実施	(7)①再課程認定の完了年度に向けて科目の充実を準備、学内一斉メールの学年別作成②対象学生の募集	90%	(7)①専修免許取得のための英語教育・英語学カテゴリー内の科目を新設 ②対象者不在で実践せず、次年度に向けチューター(TA)の諸注意を策定し研修内容を作成	学則変更によりカリキュラムを改編し、専修免許対象科目の変更を準備	(7)中学校・高等学校専修免許(英語)取得のための授業科目の整備

2021年度 外国語学研究科

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
(1)B'sVison2024に基づく学修成果・教育成果向上の改善 ①国際的視点を涵養するための教育力の向上と拡大 ②生涯学習センターとの連携による自律的、自主的学習支援 ③短大以後の卒業生入学を促進、永久サポート大学を目指す ④チューター制度、研修等のストレス耐性を持つ人材育成
(2)中・長期的ビジョンに基づく検討と整備 ①中学・高等学校専修免許(英語)取得のための科目の整備 ②データサイエンス教育科目の検討 ③共通科目におけるDX導入の検討
(3)文京学院大学の教学の方針を踏まえた計画 ①全学FD・SD研修会を受け自己点検・評価の推進を行う ②外国語学研究科独自のFD研修会の実施する ③年間授業アンケート結果の満足度95%以上を目標とする
(4)認証評価結果を踏まえ、収容定員の充足、学生受け入れに求める方針の明確化 ①募集戦略の先鋭化、内部進学者の増大(80%以上)を図る ②APに基づく具体的な学生の受け入れの学習歴、学歴水準、能力の明確化と情報公開
(5)認証評価結果を踏まえ、学位授与方針と学修成果の関係の明確化を図る ①課題研究、修士論文の評価ルーブリックの策定 ②学位授与方針と学修成果の指標の明確化と情報公開